

## 工業部会のキーワード

### ◎3年後のあるべき姿

「地域資源を活用した特産品」「ここにしかない美味しいもの」「食を中心としたまちづくり」「外貨を獲得」「知名度アップ」「域内総生産額アップ」「魅力ある働く場」「外国人や他地域の人が流入する」

#### ■担い手

##### ■人材確保

- 現場の人手不足
- 専門職の不足
- 優秀な人材の確保
- 都市部学生とのマッチング機会
- 外国人の雇用
- 従業員の高齢化
- 採用担当者のノウハウ
- 魅力発信が不足

##### ■人材育成

- マネジメント層のレベルアップ
- 技術の承継

#### ■経営

##### ■経営体制

- 時代に合ったビジネスモデル
- 付加価値の高い製品開発
- マーケティング力の向上
- 新規事業開拓・新商品開発のノウハウ

##### ■生産体制

- 下請け業者不足
- 他地域との連携不足
- 産学官の連携

恵那市産業振興ビジョン検討部会ワークシート(工業部会)

分類	現状と課題	
	市の現状と課題の認識(マクロの視点)	委員の現状と課題の認識(ミクロの視点)
担い手	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生産年齢人口は2030年には現在から5,300人減少する。(28,000→22,700)</li> <li>●市内事業所数は減少傾向(全産業2009年2,982→2016年2,655)</li> <li>●求人数については一定規模で推移しているものの、求職者数は年間約千人単位で減っている。(景気の回復も影響か)</li> <li>●企業の労働力の充足率は減少傾向。</li> <li>●市内企業の88%が社員の不足・やや不足と回答している。</li> <li>●15歳から24歳までの就学・就職による転出が多く、就学では転出先で就職する傾向が高い。大学生は地元に戻って来ない。</li> <li>●恵那・中津川地域の高等学校の市内就職率は20%台で推移している。高校生充足率は求人数の増加により大きく減少。(H27 59.6% → H28 38.7%)</li> <li>●人口減少による労働力不足に対する対策が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高卒の人材不足                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・工業団地等の大手の企業に流れてしまう。大手思考。</li> <li>・現場の高校生が不足。</li> <li>・工業、商業などの専門高校の縮小。</li> <li>・高校生の希望する大学が近隣にない。</li> </ul> </li> <li>○大学生等の人材不足                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生等の採用活動時に寮の有無を聞かれる。住宅助成がほしい。</li> <li>・グローバル化、外国語に対応できる人材の確保。</li> <li>・大学生等の高学歴の学生が働く場所がない。</li> <li>・<u>システムエンジニアの不足。</u></li> <li>・<u>地元就職を希望する都市部に進学した学生との地元企業とのマッチング。</u></li> </ul> </li> <li>○人材不足(全般)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・定年を65歳までとした時の助成があれば良い。</li> <li>・姉妹都市や求人倍率の低い市町との人事交流(企業説明会等の開催)。</li> <li>・新卒、中途問わず不足。労働人口の減少が要因。(都市で働いている人への地元勤務のアプローチ)</li> <li>・優秀な人材の確保が困難。</li> <li>・優秀な人材の不足。過疎化のイメージがマイナスか。</li> <li>・若手社員の不足。製造、施行分野。設計のみではなく現場もあるため敬遠される。</li> <li>・企業説明会の開催。</li> <li>・企業説明会の回数増。</li> <li>・窯業分野も人手不足。瑞浪市から社員が来ている。</li> <li>・専門業者不足により自社での対応による人手不足。</li> <li>・<u>人材不足に対応するため他県・他市での採用活動。</u></li> </ul> </li> <li>○賃金格差                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・名古屋市と比較され都市に流れる。</li> </ul> </li> </ul>

<p>担い手</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国人労働者 <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語を勉強できる場所の不足、PR不足。</li> <li>・外国人労働者は空家を活用。</li> <li>・外国人労働者は中国人からベトナム人へ変わってきている。</li> </ul> </li> <li>○社員の高齢化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・社員の高齢化により親の介護(通院)を理由にした休暇の増。病院への送迎バスの不足。</li> <li>・<u>従業員の高齢化による自社の存続。</u></li> <li>・<u>社員の高齢化による技術の承継。</u></li> </ul> </li> <li>○その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>新入社員を受け入れる・教育する側(社員)の研修。</u></li> <li>・<u>採用活動の際の自社の魅力発信の仕方。</u></li> <li>・<u>採用全般のテクニック。</u></li> <li>・<u>専門的な技術が要求される部署での技術の承継。</u></li> <li>・<u>小売業等のようなB to Cの業態では良いが、B to Bの業態は自社の知名度向上が採用の課題。</u></li> <li>・<u>時代にあった採用活動の仕方。</u></li> <li>・<u>社員育成の場(研修)の不足。</u></li> <li>・<u>社員育成制度がないため、技術を教える側のスキル不足。</u></li> <li>・<u>OB(高校、大学)を活用した採用活動</u></li> <li>・<u>人材バンク等の設置。</u></li> </ul> </li> </ul>
<p>産業の現状</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域経済の状況は市外への流出が大きく域内で完結していない。(地域経済循環率82.9%)</li> <li>●事業所数では卸売業・小売業が一番多く、次いで宿泊・サービス、製造業に続く。全国・県平均でみると製造業の割合が高い。</li> <li>●従業員数では製造業、卸売業・小売業の順で多く、全国・県平均と比較すると製造業の従業員数の比率が高い。</li> <li>●雇用者所得は総額では3次産業の所得が大きい、特価係数で見ると2次産業のみ全国平均を上回る。</li> <li>●生産額・付加価値額・雇用者所得の特価係数で全国平均を超える産業は製造業で、その中でも産業分類の「パルプ・紙・紙製品製造業」「窯業・土石製品製造業」「プラスチック製品製造業」が大きい。</li> <li>●全産業において労働生産性が低く、全国平均を下回る。労働生産性を向上させる取組が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○産学官の連携がない。</li> <li>○労働生産性が低い。</li> <li>○<u>業務内容の効率化・省力化が不十分</u></li> <li>○廃業が多い。後継者不在、将来不透明が理由か。</li> <li>○地場産業の衰退。</li> <li>○<u>試験場が遠い、費用が高い。</u></li> <li>○<u>時代に合わせたビジネスモデルの変更。</u></li> <li>○<u>下請業者の不足。</u></li> </ul>

製品・販路	<ul style="list-style-type: none"> <li>●調達先が市内企業ではない(見つからない)場合が多い。</li> <li>●近隣に大学が少なく産業連携が進んでいない。</li> <li>●販路開拓の支援が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市内には調達先がない。</li> <li>○専門業者が市内には少なく他市に頼っている。</li> <li>○原料の確保、高騰。 資源のリサイクルは地元で。</li> <li>○エネルギーコストの高騰。</li> <li>○顧客が近くにない。</li> <li>○海外への販路拡大。生産拠点の移転もあり得る。</li> <li>○高付加価値製品の製造・販売 <ul style="list-style-type: none"> <li>・素材産業(サプライヤー)のみ。高付加価値のオリジナル製品の開発。</li> <li>・<u>利益率を上げるための商品・サービスの高付加価値化。</u></li> </ul> </li> <li><u>(強み)高付加価値の商品・サービスの提供を行い社員に還元することにより、優秀な人材の確保。</u></li> <li><u>(強み)これまで培ってきた品質保証</u></li> <li><u>(強み)商品技術・ノウハウ</u></li> <li>○営業力不足</li> <li>○新規分野、事業の相談先がない</li> <li>○市場動向等の情報収集力</li> </ul>
土地・環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>●物流上の道路利便性は高い。</li> <li>●バス利便性が悪く通勤には使えない。</li> <li>●企業立地ニーズは高いが新たな事業用地がない。</li> <li>●工業用に利用可能な水(工業用水)は少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○交通アクセスに特徴がない <ul style="list-style-type: none"> <li>・悪くはないが中津川、土岐と比べても特徴があるわけではない。</li> <li>・高速道路、国道等はあるが市街地のみ。周辺地の道路網は良くない。</li> <li>・特に恵那インター周辺の利便性が悪い。</li> <li>・公共交通機関の利便性が悪い。車がないと生活できない。</li> </ul> </li> <li>○企業誘致(工業団地)は労働者の取り合いとなるため、人を連れてくるような誘致の仕方。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>●支援情報入手に便利な媒体がない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○補助金の申請が複雑、手間が掛かる。</li> <li>○働く側の意識変化。</li> <li>○<u>朝ドラやオリンピックを契機にした知名度の向上。</u></li> <li>○<u>他地域との連携</u></li> </ul>